

2013年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1. キリスト教に基づく人間理解の深化

大阪女学院中学校・高等学校は女性が一人の人格として、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をすることを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力をもつ人間を育むことを目指す。宗教教育については、長年の実績を踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかげがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。また、入学後、保護者に対しても、学校への理解を深めてもらえるよう努める。

(1) 年間聖句 「誇る必要があるなら、わたしの弱さにかかわる事柄を誇りましょう。」

(コリントの信徒への手紙二 11 章 30 節)

(2) 礼拝【中学校】・月、水、金 中学1年、中学2年、中学3年合同でチャペル礼拝

・火、木、土 クラス礼拝

【高等学校】・火、木、土 高校1年、高校2年、高校3年合同でチャペル礼拝

・月、水、金 クラス礼拝

・英語科英語礼拝 (年8回) OCC ホール

・英語礼拝 (年4回) チャペル

・特別礼拝 音楽礼拝(年3回)、イースター礼拝、母の日礼拝、

花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝、伝道週間特別礼拝

(3) 修養会

J1 7月8日(月)～10日(水)1泊2日(2班) 会場 VIPアルパインローズビレッジ

主題「交わり、支え、共に成長しようー私たちは愛し合うために生まれた」

講師 及川信先生(日本キリスト教団中渋谷教会牧師)

J2 7月8日(月)～10日(水)1泊2日(2班) 会場 舞子ビラ神戸

主題「深く知るーしんごい時に」

講師 阿部倫太郎先生(日本キリスト教団東和歌山教会牧師)

J3 9月5日(木) 会場 大学201教室

主題「私から始める、世界が変わる」

講師 清家弘久先生(日本国際飢餓対策機構常務理事)

S1 7月8日(月)～10日(水)1泊2日 2班 会場 神戸フルーツフラワーパーク

主題「あなたの名前を呼ぶ神」

講師 大嶋重徳先生(KGKキリスト者学生会主事)

S2 1月30日(木) 会場 OCCホール

主題「レシーブ」

講師 鈴木雅也先生(武庫之荘めぐみ教会牧師、Hibaスタッフ)

S3 7月8日(月)～10日(水)1泊2日 2班 会場 ユニピアささやま

主題「あなたはほんまに宝物！」

講師 波多康先生(ゴスペルチャーチ東京牧師)、KIKIさん(ゴスペルシンガー)

(4) 伝道週間 9月24日(火)～9月30日(月)

主題講演講師 深井智朗先生(金城学院大学人間科学部教授・宗教主事、日本キリスト教団正教師)

(5) 宗教行事

3月10日(月) J・S宗教行事 映画『アメイジング・グレイス』、山田祥美さんの歌

(6) 公開クリスマス 12月18日(水) 3回実施

(7) 中学校、高等学校 宗教行事感想文集「えのき」発刊

2. 建学の精神の再認識と再構築

本校が女子校として建学されたことの中にある精神を再認識し、教育理念を確認しつつ、現代に生きる女子のための教育の充実に努める。

(1) 新入生全員に本校の建学の精神や沿革等をまとめた冊子『愛と奉仕』を配布し、最初の聖書の授業を通して内容を理解させた。また、ホール会主催で「聖書を学ぶ集い」を年間4回行い、保護者にも建学の精神、教育理念への理解を深めた。

(2) キリスト教学校フェアへの参加

6月2日(日)会場 大阪YMCA会館

大阪地区にある14のキリスト教学校と協力しつつ来場者に建学の精神と教育理念を説明する学校別展示やブースを出展した。また、生徒によるボランティア活動の報告やフェア会場においても募金活動することで、キリスト教教育の特徴をアピールした。

(3) 大阪私立女子中フェスタ・フェアへの参加

4月24日(火)会場 新阪急ホテルにて

6月16日(日)会場 御堂会館にて

大阪地区の私立女子中学校が集まり、女子校の良い点について講演があり、女子教育の意義を、受験生、保護者に直接伝えることができた。各校のブースでは、具体的な質問が寄せられ、オープンキャンパスにも関心を持っていただくことができた。御堂会館のホールではバトン部の生徒たちが出場し、全国レベルの演技を披露してくれた。

II. 教育の内容

上記の教育理念を具現化するため、生徒一人ひとりに与えられた賜^{たまもの}を生かし、学力、協調性、行動力、自己と他者を大切にする人権意識、円滑な社会生活を営むための規範意識、そして世界平和を実現するための国際性を身につけること——「生きる力」を養う教育を目指し、以下の取り組みを行う。

1. 学力向上の取り組み

激動の時代の中で、どんな困難な状況にあっても、希望をもって、創造的に、他者とともに成長する「真の学力」を身につけることを目指す。新指導要領実施にともない、これまでの一貫カリキュラムを見直し、成果と課題についての検討を進め、各教科でより充実したシラバスの作成を行う。また、生徒一人一人が自学自習できる主体性と学力を身につけるための指導に取り組む。

以下の項目の詳細については V.4 を参照

- (1) 学力検討委員会(年間7回)による成績推移の分析、対策の検討
- (2) OJダイアリーの導入
- (3) シラバス編纂
- (4) 中学自主学习
- (5) 中学生放課後自主学习支援(ビッグシスター制度)

(6) 高校希望者補習

(7) BB講座

(8) 高校スタディサポートの利用

5月と11月の面談日に、各担任はスタディサポートのデータを活用して面談を実施し、学力や家庭学習に対するアドバイスをを行った。

2. 授業内容の充実のための取り組み

2週間時間割を始めて3年目を迎え、授業時間の確保と行事の精選をすすめ、集中して自ら学習に取り組む力と、仲間と協調して行事、クラブ活動等の目標を成し遂げる力との両方を身につけさせる。

現在の中学・高校分割授業、習熟度別クラス編成における成果の分析を行い、学力向上のための授業形態についての検討をさらに進める。また、専任率を高め、常勤講師数を増やすことによって授業並びに補習等の充実を図る。

行事の見直し、2学期始業日の変更等について検討を行った。授業日数の確保のため、2014年度2学期は8月25日始業と決定した。学習と行事・クラブ活動は、本校の教育を推進する際の両輪であることを踏まえ、授業及び学習時間と行事とのバランスを考えて行事見直しについて検討を続ける。

現在、中学2年生の英語、高校1年生・2年生の英語表現の授業をクラス2分割、中学1～3年生の代数の授業を習熟度別クラス2分割で行っている。電子黒板を使つての授業も少しずつ軌道に乗り、丁寧でわかりやすい樹季ぐよう展開に役立っている。代数での習熟度別授業では、標準クラスの生徒のモチベーション低下に配慮するべく教科で取り組んでいる。

少子化の中、学校運営の厳しい時代であるが、わずかでも学年付きの専任、常勤教員数を増やした。

3. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育(人権教育)については、「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、生徒がお互いの存在を尊重しあうことが大切にされる解放教育を目指す。また、世界の人権状況と人権獲得の歴史を学び、守り、発展させていく意味を考えさせ、各学年の成長過程に応じて、生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。また、携帯電話・インターネットの扱いやいじめの問題に対する生徒の問題意識を更に深める。

「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、各学年別年間目標をたて実施した。

(1) 学年別テーマ

中1「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である ～違いを知り、共に生きよう～」

中2「3年生の長崎への修学旅行に向けての平和学習」

中3「顔を上げて前向きに」～周りの人たちへ真心を込めて届けよう～Give happiness to others」

高1「在日外国人の人権」

高2「人権・共生の視点から日本における民族的マイノリティーのアイヌ民族と日本社会における雇用問題」

高3「反戦平和とメディア・リテラシー」

(2) 中学平和を考える日

中学3年生の修学旅行平和学習感想文代表者発表と反戦平和映画「八月の狂詩曲」鑑賞

4. 生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。特に、基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導し、時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化等について、周りに配慮して行動できるように指導する。

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をした。特に、基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導し、時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化等について、周りに配慮して行動できるように指導した。服装に関しては、各学期でキャンペーン期間を設け、制服の正しい着用を指導した。また登校中の安全、マナー指導に力を入れた。通学路が混み合う時間帯には、いくつかの道に分散して通学するよう指導した。登校時には、生活指導委員会を中心に全教職員で通学路に立ち、声をかけ指導を続けた。その結果、地域からの苦情は減少した。

5. 国際理解教育の推進

留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。

V. 6参照

6. 学校行事による集団作り

学校行事を通して、学級の集団作り、仲間作りを行う。また、学校と保護者とが連絡を密にし、細やかな面談の実施によって一人ひとりを大切にしていく。

生徒たちは、生徒会主催の体育大会、文化祭、学年単位で行う合唱祭、宗教行事、全体解放、弁論大会、暗唱大会等種々の行事に、参加者として、また運営企画する者として、各々の立場で、多くの人とコミュニケーションを深め、創造性、社会性を身につけた。また、生徒面談(全校で1年に2回)、三者面談(家庭訪問)等の機会を持ち、生徒の学習、学校生活をサポートした。

III.教育の実施体制

1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み

受験希望者、保護者に大阪女学院を紹介し、理解を深めていただくための広報活動にこれまで以上に力を入れる。そのため、校内外の入試説明会等における個別相談の機会を増やし、HPのリニューアル、フェイスブックの公式サイト開設等、インターネットを利用した広報を充実させる。また、中学・高校それぞれの入学希望者数の増加を計るための公立中学校や、塾訪問等のエリアの拡大を含め、入試対策全般について教職員全員で取り組む。

中学校入試については、私学受験者、特に女子校の受験者減少により、入学者も若干減少したが大幅な減少には至らなかった。今後も入学試験における学力レベルを維持しつつ、入学後の教育内容の充実、生徒の学力向上、に努め、入学者を確保していきたい。高等学校入試については大阪府の施策である授業料無償化の影響もあり、近年にない出願者数であった。公立中学等からの入学者も86名となった。

今年度の力を入れて取り組んだこと

- (1) 入試対策室から入試に関する情報をできる限り教職員全員に発信し、募集に関わる意識を喚起した。
入試委員全員で公立中学校訪問を実施。
- (2) オープンキャンパス等の案内、ノベルティーに工夫を凝らし、また学校の HP、Facebook に「卒業生の声」を次々掲載はじめ、学校行事、クラブ等の情報をスピーディーに更新、取材を受けた記事にリンクをはり、様々な形で学校をアピールした。
今後も学力レベルを維持しつつ、学力向上、教育内容の充実に努め、入学者を確保していきたい。

・中学入試について

募集人数	190名							
	前期						後期	総合計
	A方式（専）			B方式（併）			併願	
	4科	3科	合計	4科	3科	合計		
出願者数	162	59	221	89	26	115	259	
欠席者数	6	4	10	1	4	5	178	193
受験者数	156	55	211	88	22	110	81	402
合格者数	152	48	200	84	20	104	65	369
手続前辞退者	45	12	57	60	16	76	58	191
入学手続者	107	36	143	24	4	28	7	178
手続後辞退者	3	3	6	2	0	2	1	9
入学者	104	33	137	22	4	26	6	169
帰国生入試	3							
入学者	172							

・高校について

	普通科文系	普通科理系	英語科	合計
女学院中学出身者	116	38	51	205
高校からの入学者 専願	42	3	15	60
高校からの入学者 併願	8	2	16	26
転入生	0	0	1	1
合計	174	42	81	292

3. 中学・高校としての図書館機能の充実

図書館機能の充実のため、以下のことに取り組む。

①蔵書の充実

- a. 新学習指導要領の基本的な考え方を踏まえた教員向け教材研究用資料、生徒向けの学習に役立つ資料の収集
- b. キャリア教育に関する資料の収集
- c. 学校行事(修学旅行・有志旅行・文化祭・合唱祭など)の事前学習や準備に必要な資料の収集

- d. 学習到達度の低い生徒や、家庭状況など様々な背景を持つ生徒への対応に必要な資料の収集
- e. 生徒の知的好奇心を喚起する多種多様な資料の収集

②利用教育

授業支援の一つとして、テーマごとの情報の探し方や図書館資料の活用方法などを紹介したパスファインダーを作成し、ウェブや紙ベースで紹介する。また、図書館を使って授業を行うときに司書が資料の探し方を紹介し、生徒に自分で情報収集する力をつけさせる。

③図書委員会活動の充実

文化祭での研究発表、近隣の高等学校の図書委員との交流会の実施

④その他

授業をはじめ、部活動や趣味等での情報収集や発表のための資料作成に生徒が使える機器類の充実

3. 中学・高校としての図書館機能の充実

① 資料について

中高合わせて 1,818 冊の図書を購入した。ビデオ資料が劣化してきたため、利用の多い作品約 30 点を DVD に買い替えた。

② 図書館での授業について

定例で利用されていた、高校 2 年の異文化理解、高校 1 年の国語演習に加え、高校 3 年の政治・経済のクラスで情報収集のために連続で授業が行われた。

③ 図書委員会活動について

- ・ 2 月に教師図書委員の引率で 19 名の中高図書委員がジュンク堂書店堂島店で選書をした。中学生 69 冊、高校生 52 冊選書し、重複などで返本したのものもあったが、図書館の蔵書となる本を自分たちで選ぶとてもよい経験ができた。
- ・ 第 59 回大阪府青少年読書感想文コンクールの高等学校課題読書の部で、高校 1 年生の角田有紀子さんの作品が特選を受賞し、大阪府の代表として全国コンクールに進み、サントリー奨励賞に入賞した。

④ 図書の展示について

その時々話題性のあるものをテーマに、月に 4~7 種類の短期入れ替えの図書展示を行った。有川浩、ジブリ、オードリー・ヘプバーン、百田尚樹、しかけ絵本の展示に人気が集まった。

4. 中学・高校教員の人材育成

これからの大阪女学院を担っていくための人材育成に取り組む。

教職員全員で、改めて大阪女学院の建学の精神を共有し、その実現に向けて、本校の歴史や教育の流れを学ぶ機会をもつ。また、新任の専任教職員には、選挙制度(校務担当者・校長教頭選挙)をはじめとして、本校の組織運営についての考え方、歴史、仕組みなどについての研修を設け、本校を担う一員として、積極的に参加できるようにする。

支援教育委員会の働き、発達障がいについての学習を深めて教員の指導力を強化する。

今年には新任教員の研修をスタートすることとした。多忙な業務の中で、若手の教師が孤立し、行き詰まることのないよう、新任 1~2 年目教員全員参加で 7 月 31 日~8 月 1 日の日程で、河内長野市立滝畑ふるさと文化財の森センターにて一泊研修会を行った。10 年目までの教員に企画及びスタッフを依頼し、第一に親睦を、また先輩教員の具体的な経験を通して、相談し合えるチーム作りをめざすこととし、研修を「TEAM

OJ」と命名した。支援教育、選挙制度についても概略を聞く機会とした。プログラムを改善しながら続けていきたい。

IV. 生徒支援

1. 生徒の自己実現を促す進路指導

生徒が自分の将来への展望を明確にした上で、より良い進路選択ができるよう、指導、助言をする。

(1) 中学校での進路ガイダンス(キャリアガイダンス)の充実

①J2で「キャリア分野別講演会」の実施

1学期 生徒たちに関心のあるキャリア分野についてアンケート

11月「キャリア分野別講演会」を実施（同窓会、保護者、学校関係者などの協力を仰ぐ）

②インターンシップについては、都心にある学校として立地条件を生かした取り組みを引き続き模索、検討する。

③J2、3学期末に、文系、理系、英語科の説明会の実施

現在J3で4月初旬に行われている文系、理系、英語科の説明会の時期を早めるとともに、各コースの生徒による説明をプログラムに加えて、J2の生徒に高校進学に向けての進路意識を明確に持たせ春休みの期間の自主学習を充実させる。

④J2、3学期までに、進路を考える上で必要な視点についての講演会の実施

(2) 基本的学習習慣の確立

現在、各学年で定着しつつある「テスト前2週間の学習計画を立てさせる取り組み」を、全学年で徹底させる。そのため、現在テスト1週間前に発表されている各教科のテスト範囲の発表の時期を、2週間前に変更し、2週間の学習計画をさらに充実、徹底したものとする。

(3) 進路室の様様替え

地震に備えるため、書架などの配置を変更、さらに頑丈な金具で固定する。

また、願書などの貴重品や個人情報の安全な管理、来客や生徒との面談スペースの整備のため、進路室内をプランナーウォールで区切る。

(4) 新カリキュラムへの対応

現S1生が受験する2015年度入試より数学と理科が新カリキュラムに移行、受験生にとっては理科の負担が増大し、文系の国公立大学志望の際にも2科目の受験が必要となる。(現S2生が浪人するとセンター試験のために新たに1科目が加わる)今回の変更は、浪人に不利となる。さらに現J3が受験する2016年度入試では、英語をはじめ、大幅な変更が予想されるため、情報収集、的確な対応に努める。

(1) J2 で行うことにしたキャリアガイダンスだが、初年度である今年度は、J3も参加して行った。同窓会の協力により12分野の同窓生が来校(4人は東京から)、加えて宇宙開発機構にも参加をいただいた。卒業生が体験を語るコース説明とリクルートによる「未来に必要な力」と題する講演は、昨年度より始めたが、開催時期を中学2年生の3月に変更して行った。この講演は本校の教育方針に合致する内容であり、保護者にも聞いてもらいたいとの意見があり、2013年度はチャペルで実施した。

(2) 基本的な学習習慣の確立のためにテスト2週間前にテスト範囲を発表したことは、テストに対して前向きに取り組むことの重要性を生徒に伝える効果があった。また、今年度より、J1ではOJダイアリーによる自分のスケジュール管理の指導がはじまった。加えて学年の進路の時間には、学習や生活等についてのアンケート結果を踏まえて、自身で生活のデザインをしていく意識を喚起した。また同志社女子大学のフェアトレードの講演を取り入れるなど、さまざまな取り組みが新たに行われるようになった。これらの取り組みにより、進路意識のさらなる向上が期待できる。

(3) 進路室の様子がえを行った。重量ロッカーの搬出、書架や保管用ロッカーの配置換えを営繕に依頼。その後プランナーウォールを設置し、新年度の開始に間に合わせることができた。

これにより、次の点が改善できた。

- ①すべての書架やロッカーを固定し、地震に対応できるようになった。
- ②車椅子での入室、室内の自由な移動、書架の閲覧が可能となった。
- ③生徒との面談、来客に対応するスペースを確保できた。
- ④間仕切りをして、施錠できる小部屋を作り、情報管理を徹底できるようにした。
- ⑤指導する側と生徒との間の壁をなくし、生徒への対応がスムーズに行えるようになった。

(4) S3 への取り組みを充実させることができた。第一希望の進路実現に向けて、またそれがかなわない場合も、最後まで次の希望進路実現に臨むため、今年度より入試前のサポートの取り組みを強化した。このことにより国公立の後期入試まで粘り強く奮闘し、結果に対して充実感を得ることができた生徒が多かったのではないかと考えている。S32013 年度計画には記載されていないが、具体的には次のような取り組みを行った。

①12月にセンター試験の予行を行い、大学の大教室で、代ゼミ講師による英語、現代文、日本史・世界史・地理、数学の解説授業を行った。特に、英語と現代文は非常に好評で効果があったと考えている。実際のセンター試験で非常に役に立ったとのことであった。2014年度は、7月にも英語と現代文の解説授業を実施する。7月と12月に2回実施することにより、さらなる効果を期待している。

②1月の始業日からセンター試験までの1週間を「センター対策期間」、センター自己採点返却から1月末までの1週間を「国公立2次・難関私大対策期間」と位置づけ、自習を基本としつつ朝終礼を実施した。1教室を質問室として先生方が対応できるように確保、さらに講義室を2教室確保しての直前講習を実施した。教科担当者全員が3月まで熱意をもって生徒の受験指導に当たったことが国公立の後期入試で現役生が10名合格する結果に繋がったと考えている。また、協定校や指定校等、推薦で進路が決まった生徒たちに対しても、きめ細かく学年団が指導を続けたことで、学年全体が最後まで進路の実現に向け団結して向かうことができたと感じている。

(5)進路結果の概要は以下の通りである。

国公立大学は現役で29名が合格した。国公立現役に関しては、2009年度が25名、2010年度が32名と増加、2011年度は19名と大幅に減少した。昨年度はセンター試験が非常に難化し、現役不利にも拘らず31名と回復した。今年度は文系志望者のセンター試験が昨年とほぼ同じ平均点に留まり、昨年同様と現役生にとつて非常に厳しい状況であったが、29名と人数を維持することができた。これは後期入試まで非常に頑張ったからである。後期が現役で10名、過年度生で7名、合計17名と最後まで粘った結果である。

また関関同立4大学は現役生で140名であった。今年度は次年度からの数学と理科の新課程入試への怖れによる「浪人したくない症候群」が公募推薦入試から事前予想を大きく上回る影響が表れた。難関校受験者が過去には受験しなかった大学まで受験した。そのため関関同立を第一志望にしていた現役生は苦戦を強いられたと考えている。

さて、これからチャレンジする入試はどうなるのであろうか。英語、社会、国語も新課程に入試となるため文系受験生に「浪人したくない症候群」が蔓延するものと考えられ、入試そのものの競争が激化すると考えられる。加えて難関校の入試問題が単に暗記をすれば解けるような問題ではなくなりつつある。従って、「考える力」が難関校には求められており、準備しなければならない。

①2014年卒業生 進路状況（最終進路）

	進 学					就職	その他	合 計
	大学	短大	専門学校	留 学	予備校	就職	その他	合 計
人数	207	19	5	2	28	0	0	261
%	79.3	7.3	1.9	0.8	10.7	0	0	100
%	86.6							
%		88.5						
%			89.3					
%				100				

	大学	短大	その他	合計
普通科	139 (74.3%)	17 (9.1%)	31 (16.6%)	187
英語科	68 (91.9%)	2 (2.7%)	4 (5.4%)	74

③大阪女学院大学・短期大学への進学状況

四年生大学合格者数（入学者数）

	2012年卒	2013年卒	2014年卒
普通科	13(4)	16(9)	17(14)
英語科	5(1)	6(2)	3(1)
合計	18(5)	22(11)	20(15)

短期大学合格者数（入学者数）

	2012年卒	2013年卒	2014年卒
普通科	6(5)	8(7)	12(12)
英語科	1(1)	2(2)	2(2)
合計	7(6)	10(9)	14(14)

2014年卒の内訳

入試方法	受験者数		合格者数	
	大学	短大	大学	短大
学内選抜（専願）	8	7	8	7
学内選抜（併願）	11	5	11	5
一般(学内選抜以外)	1	3	1	2
合計	20	15	20	14

2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- (1)自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室（学校カウンセラー）、サポートルームと連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- (2)授業・学級活動・生徒会活動・クラブ活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように努める。
- (3)学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- (4)不登校や発達障がいなど支援を必要とする生徒をサポートするため、「支援教育委員会」を充実させ、支援のための学校チーム力を向上させる。サポートルームについては、指導員が保健室と連携しながら、利用生徒の成長に寄り添う支援をさらに進める。支援教育アドバイザーのアドバイスを元にして、支援を必要とする生徒への教員の指導力を高め、一人一人の生徒を大切にした教育を実践していく。

- (1) 自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導した。そのために保健室・教育相談室(学校カウンセラー)、サポートルームと連携し、生徒・保護者をバックアップした。
- (2) 授業・学級活動・生徒会活動・クラブ活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように努めた。

- (3) 学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応した。
- (4) 不登校や発達障がいなど支援を必要とする生徒をサポートするため、「支援教育委員会」を充実させ、支援のための学校チーム力を向上させた。サポートルームについては、指導員が保健室と連携しながら利用生徒の成長に寄り添う支援をさらに進めた。支援教育アドバイザーのアドバイスを元にして、支援を必要とする生徒への教員の指導力を高め、一人一人の生徒を大切に教育を実践した。
- (5) 「いじめ防止対策推進法」施行に伴い、10月に文科省が発表した「いじめの防止等のための基本的な方針」を受けて、本校として「いじめ防止対策方針」を3月末に策定、施行した。

V. 改革・改善

2013年度の課題として、とりわけ以下の項目について重点的に取り組む。

1. 組織の再構築と運営方法の見直しの継続

2012年度から始まった新教職員組織制度が円滑に機能するよう、それぞれの校務担当の役割や会議の持ち方について検討を進める

更に進んだ会議体の運営の円滑化、活性化のために、中学校、高等学校の人事配置については、意識的にローテーションを行い、教員全員が中学、高校を経験し、一貫校としての認識を新たにして発想できる環境を生み出すことに努めた。

2. 中学・高校教務のシステムの統一化

中学校、高等学校の学籍管理、成績管理、時間割管理等のシステム統一をはかるとともに、情報の電子データ化によって、より迅速で広範囲な利用ができるようにする。また、電子データやその他の個人情報を含む書類の保管・管理について、より安全なガイドラインを作成するとともに、そのために必要な機器・備品の充実をはかる。

中学校、高等学校の成績管理のシステム統一は年次進行し、時間割管理のシステムの統一が完成した。また、答案、成績の管理体制が改善された。

3. 教員の労働環境改善

教員一人一人が、より質の高い教育を目指せるよう、2014年度には、「教員全員に1週間に1日の研修日(2週間時間割は継続)制度」の実施を目指して、労働環境の改善を進める。また、2015年度には、学年副担任を、2012年度より各学年1名ずつ増やして、専任率を向上させる。経過措置として、2013.2014年度は、副担任の補助としての特別常勤講師の配置を行う。

教員一人ひとりが、より質の高い教育を目指せるよう、「教員全員に2週間に2日の研修日(2週間時間割は継続)制度」の2014年度実施ができるように、計画、準備をした。また、2015年度には、学年副担任(専任)を8クラス以上4人、7クラス以下3人を目指して配置した。2013年度では、学年副担任数がこの目標に到達していない学年は特別常勤を副担任の補助として補うこととした。

4. 生徒の学力向上について

2012年度各教科のシラバスを持ち寄り、本校における一貫カリキュラムの成果と課題の検証を教科、学校全体で行い、本校の目指す目標を明確にして2014年度実施のためのシラバスを完成させる(2013年度内)。また、生徒一人一人が自学自習できる主体性と学力を身につけるための指導に取り組む。中学では土曜の授

業後に行ってきた自習学習の時間についてふり返しを行い、今後の指導を検討する。また高校ではBB講座、土曜講座、水曜講座が生徒の自主学習の助けとして、より成果が上がるように、内容、進め方について改善を行う。

(1) 一貫カリキュラム検証のためのシラバスの見直し

提出された各教科のシラバスを検討し、年度ごとの更新・改訂へ向けて各教科に次の提言を返した。

◆大学入試で学科試験がある教科について

- ① 生徒各自の進路希望をかなえるため、高校3年生2学期時点での学力到達目標数値（模試偏差値、センター試験の得点率、その他アチーブメントテストなど）を明確化する。
- ② ①から逆算して、中学1年生時点から段階的な学力到達目標数値を明確化する。
- ③ ①・②を達成するために現行のシラバスにおいて、段階的に達成すべき事柄を確認する。
(単元内容や単語、語句、解法、公式、基本的な知識などの定着度)
- ④ ③を達成するために、現行の教授法・作業などが今の生徒に妥当なのか再検討する。
- ⑤ ③の目標達成度を測定・観察するための評価方法について検討する。定期試験以外に到達度を測定する試みをしている・これから設定しようとする、あるいは、定期試験・実力試験・宿題テスト・その他のテストの内容を再検討するなど

◆大学入試で学科試験がない教科について

- ① 生徒各自の「真の学力」を身につけさせるため、高校卒業時の学習到達目標（習得すべき技術や表現方法、運動能力、基本的な知識など）を明確化する。
- ② ①から逆算して、中学1年生時点から段階的な学習到達目標数値を明確化する。
- ③ ①・②を達成するために現行のシラバスにおいて、段階的に達成すべき単元内容を確認する。
- ④ ③を達成するために、現行の教授法・作業などが今の生徒に妥当なのか再検討する。
- ⑤ ③の目標達成度を測定・観察するための評価方法について検討する。定期試験以外に到達度を測定する試みをしている・これから設定しようとする、あるいは、定期試験・作品提出・実技試験・その他のテストの内容を再検討するなど

◆各教科共通

「年間目標」「指導の留意点」「評価方法」の明確化

(2) OJダイアリーの導入

中学1年生のスケジュール管理およびセルフマネジメントのために制作・導入。結果として72%が提出物の期限をほぼ守るようになったが、計画の実行率は42%、目標を意識した行動は23%と今後も効果的な使用方法を指導する必要性が明らかになった。

(3) 自主学習時間の成果についてのふり返し

土曜日に40分実施している自主学習の時間が定着するなかで、生徒の89%は集中して自主的な課題を行っている。特に学習習慣の定着が課題である中学1年生においては以下のような効果があった。

- ① 集中して家庭学習に取り組めるようになった 29.8%
- ② 課題提出が以前よりできるようになった 44.6%
- ③ 自分で学習の計画を立てる習慣がついた 17.4%

(4) 中学生放課後自主学習支援（ビッグシスター制度）

2学期・3学期の2ターム行った。成績下位者を指名し、週に1～3日間・各放課後1～2時間、英語または数学の課題の自主学習を実施、すでに推薦入試で大学進路が決まった高校3年生に依頼し、マンツーマン形式で中学生のフォローを行った。生徒のアンケート回答は以下の通り。

- ① J1 学習意欲の向上 87.5%、成績の向上 100%、課題提出の改善 83.3%
- ② J2 学習意欲の向上 80.0%、成績の向上 76.9%、課題提出の改善 46.2%

以上の結果から、学力以前の学習習慣や学習方法定着のための支援は、低学年ほど効果的であることが分かる。学力層の分化が進む前の段階で、こうした生徒への早期支援が今後も必要であることが明確になった。

(5) 高校希望者補習（土曜講座・水曜講座）

- S1 → 2・3学期に希望者対象に土曜講座を実施（英語・古典・数学・物理）
- S2 → 1・2学期に希望者対象に土曜講座を実施（英語・古典・数学）
- S3 → 1学期に普通科文系I型・英語科I型の希望者対象に水曜講座を実施（英語・古典・小論文）

3学期に13日間、センター試験直前補習と二次試験対策質問コーナーを設けた。

(6) BB講座

- S3 → 春休みから改めて募集をし、約30名の生徒が登録をして受講した。
 - S2 → 夏休みから受講できるように6月末から募集をし、約50名の生徒が登録をして受講した。
- *通常授業がある月曜日～金曜日は15:30～19:30、土曜日は12:00～16:30
 長期休暇中は9:00～16:30までMM3教室を開室、生徒たちに便宜を図った。
 *月に一度相談日を設けて、BB講座担当者が来校し、生徒たちにアドバイスをした。
 *2ヶ月に一度、受講生の受講状況を知らせる通知書を、家庭に送付した。

5. 新指導要領実施に向けて教育課程の見直しを行う

高校は新指導要領の2013年度実施、また指導要領改訂を受けて行われる新しい大学入試に向けて、本校の教育目標に沿いつつ、カリキュラム改訂を行う。

2013年度から実施された新指導要領に基づいて、カリキュラムを改訂してきたが、今後大学入試の動向をにらみ、さらに検討すべき点があれば協議していく。

6. 留学の充実

従来のYFUの年間留学生受け入れに加え、2012年度からカナダのオタワにあるLongfield Davidson校と提携校協定を結んだ。2012年度は本校への留学希望者が与えられず残念であったが、2013年度から本校一人目の留学生の送り出しを行う。また、2010年から1ヶ月の短期交換留学としてオーストラリアのRavenswood校との交流を再開しているが、より円滑な交流を図りたい。また、YFU・AFS・EF等、留学説明会を充実させ、留学希望者の支援を行っていく。

長期留学生受け入れのため、高校入学時に「留学生のホームステイの受け入れが可能である」と答えてくれた家庭への早い時期からのアプローチ、また、「受け入れ可能である」中学生の家庭の情報収集を進め、受け入れ態勢の充実を図る。

- ・高校1年生の夏休みに海外研修(ボストン39名、モントレール33名、ハミルトン40名)を実施した。
- ・高校2年生の夏休みに姉妹校オーストラリアのレイブンスウッドに2名を派遣した。
- ・YFU、EF、ウエストバンクーバー教育委員会などを通じての留学者8名が、1年間の充実した留学期間を終えて、帰国した。
- ・YFUからは、アメリカからの年間留学生を1名、6月にはアメリカからの短期留学生を1名、1月には韓国からの留学生を1名を受け入れた。また、11月には姉妹校オーストラリアのレイブンスウッドから2名の留学生を受け

入れ、授業、クラス、クラブ、行事等で交流を深めた。

7. 経費の削減と効率化を図る

少子化、不況による中学受験者の激減、また2011年度から始まった大阪府の高校就学支援(年収610万円まで授業料無償化、年収800万円未満保護者負担10万円実施)による学校負担増(本校授業料と国・府からの就学支援との差額)、中学の経常費補助削減の厳しい財政事情の中、諸経費を見直し、経費の削減と効率化を図る。また、大阪府をはじめとした教育に関する補助金申請を行い、有効に活用する。

昨年度に引き続き、人件費をはじめ経費の削減と諸経費の見直しを行った。

- ・南校舎(中学)全教室の蛍光灯をLED電灯に付け替え、電気代の大幅な削減を行った。
- ・コンピュータ購入は、ライセンスを利用し、OS無しの機種を選定し、教職員がセットアップすることで経費削減を行った。
- ・文具類の再利用をすすめ、中高一本化で在庫管理を実施し、購入を抑えた結果、大幅な経費削減につながった。

8. 施設内全面禁煙の取り組み

施設内全面禁煙の取り組みを行っている。喫煙者は少数にはなっているものの、禁煙の働きかけは成果をあげていない。喫煙者の健康増進にもつながる禁煙の呼びかけを今後も行っていく。

大学の喫煙ルームを除き、キャンパス内を禁煙とし、副流煙による生徒への健康被害に留意した。

9. 教職員の人権意識の向上

教職員の人権意識を更に高め、授業やクラブ活動での指導はもとより、日常における生徒との関わりの中で生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。

学院のキャンパスハラスメント規程に基づき、委員会の活動を充実させる。

以下の日程で、教職員学習会、調査を行った。

5月 17日(金) 「君が代強制が意味するもの～キリスト教学校の間から考える～」

講師: 松浦悟郎司教

9月 6日(金) 解放・生指・支援教育夏季研修会報告会

10月 17日(木) 「今、原子力発電を考える～福島第一原発の事故を無駄にしない！」

講師小出裕章先生 京都大学原子炉実験所助教

11月 4日(月) フィールドワーク 京都・東九条 在日コリアンと被差別部落

3月 6日(木) 生徒・保護者、教職員対象に「教職員・クラブコーチなどから生徒へのキャンパスハラスメントに関する調査」を行った。(J3のみ3月5日実施)

10. 将来の大学・短期大学図書館開館にともなう、中高図書館のあり方を検討

1)将来の大学・短期大学図書館開館に備えて現図書館の有効的な利用方法や中高図書館のあり方を検討するとともに、現時点での蔵書の収容スペースの拡張を図る。

2)同窓生の著作コーナーを設置する。

図書館の収容スペースの確保の手段として、前年度同様図書館の廃棄、閲覧室から書庫と北校舎書庫への移動作業を行った。また書庫の他大学の紀要を整理し収納スペースを確保した。

学院創立 130 周年を迎えるにあたり、大阪女学院同窓生コーナーを 12 月に設置した。同窓生の著作、伝記的著作などの資料を集めて展示した。

11. ICT教育の推進

マルチメディア教室(2012年度3教室開設)におけるコンピュータを利用した授業のさらなる充実を図る。現行教材のデジタル化、新しい教材の開拓を、長期的に計画し、実施していく。教室での授業においても視聴覚教材を有効利用するため、2011年度より中学校舎のフロアごとに順次設置してきた電子黒板の設置を、2013年度には中学全ホームルーム教室に完了する。また、高校校舎の放送、映像設備を整備し、授業、特別活動等における視聴覚教育の充実を図る。

高校放送設備のデジタル化工事を施工し、放送室から各教室へ送る映像がデジタルの高画質となった。また、各教室にはブルーレイディスク対応のプレーヤーを設置した。2012 年度大阪府「がんばった学校支援事業補助金」で設置されたロールスクリーンを利用して、視聴覚教材の学習に効果があった。

マルチメディア教室では、英語の他に美術、音楽、国語、社会などさらなる活用が増えた。中学全 HR 教室への電子黒板設置を完了し、電子黒板利用の授業も広く展開されている。

12. 学校危機管理についての検討

学校危機管理のためのマニュアル作成を進めていく。特に、地震に対応した危機管理マニュアルの作成、防災訓練の実施を進めていく。NTT緊急地震速報システムを導入し、学院全体で地震についての学校危機管理体制づくりに取り組む。

キャンパスハラスメント事象の発生を未然に防ぐため、学校全体で積極的に取り組む。今年度に引き続きキャンパスハラスメント規程、委員会の存在を、生徒、保護者、教職員に広く知らせて、いつでも相談できる制度づくりに努める。また、コーチ規程および有志指導者規程を整備する。

予測される東南海地震およびその被害を想定し、緊急地震速報装置による避難訓練、大阪府 800 万人訓練との連携訓練などを行った。また専門家のレクチャーを実施し、災害時における教員・生徒の1次防災、意識向上をはかり、グローバルデザインに基づいた待避行動看板を各教室に掲示した。

以上